

あきたを創り、あきたを守る

—— 建設業が守る私たちの暮らし —— VOL.1

建設業は、私たちの生活に欠かせないインフラを造り維持する、非常に重要な役割を担っています。このシリーズでは、業界の仕事や現状について3回にわたって紹介します。第1回目は、建設業の地域貢献をテーマに西宮組(仙北市)の西宮優太代表取締役から取り組みを聞きました。

INTERVIEW

西宮組(仙北市) 西宮優太 代表取締役聞く 建設業の地域貢献



地元根付いた工事や災害対応について語る西宮社長

西宮組は、仙北市や大仙市を中心に、主に土木工事を請け負っています。令和4年9月から同5年3月にかけて

は、西明寺佐曾田地区の緊急予防治山工事を実施。土砂災害を防ぐことを目的として、山の麓に治山ダム(谷止工)の設置施工をしました。平成29年の豪雨災害の発生時に山間部から土砂が流出したことから、地域住民の強い要望があって実現したものです。この工事は令和5年度の「第44回秋田県優良工

事表彰」を受賞、さらには「第39回民有林治山工事コンクール」において、各都道府県を代表する工事の中から農林水産大臣賞に選ばれました。

賞の受賞は、道路や民家が近い立地で、冬期間の工事であったことや安全性、出来栄を評価されました。会社から見えるほど近い、まさに地元での工事が高く評価されたことを、とても光栄に思います。

災害時対応も重要な業務

災害時の対応も重要な業務の一つです。今年8月下旬の大雨で桧木内川が氾濫した際には、同じ仙北市の角館建設工業、小林産業と共同で復旧作業にあたりました。西宮組を含む3社共同体は災害箇所地元企業ということもあり、真っ先に駆けつけて現場を通行止めにし、特に氾濫後の2～3日間は24時間体制で作業を行いました。川が決壊した場所にはすでに養生がされていましたが、1日に250ミリのを超える降水量は、想定をはるかに上回るものでした。経験したことのない災害で二次災害の恐れもある状況下において、人的被害を出さずに作業を終えられたこと

が何よりです。通りかかった人の中には、現場作業員に直接感謝を伝えてくれた人もいて、大変励みになりました。

今後も地域の自然や暮らしに根付いた業務を継続していくためには、業界全体の課題でもある「人材確保」が重要です。

今年12月からは新たな試みとして、ベトナム人の技能実習生を2人受け入れました。どれだけ技術が発達しても、建設業は人が足りなくては成り立ちません。さまざまな手段を講じて、この重要な役割を受け継いでゆく人材を育てていきたいと思っています。

建設業の仕事(西宮組) 暮らしの便利と安全を支える業務の一部を紹介します。



防災

西明寺佐曾田地区に建設した治山ダムの全景(写真上)と1号谷止工(写真右)。民家のすぐ裏手にコンクリート谷止工を2基設置した(令和5年3月完成)



橋梁下部工

国道105号の道路メンテナンス工事として上松木内地区の橋梁(きょうりょう)下部工を建設した(令和6年7月完成)。令和7年度「第46回秋田県優良工事表彰」を受賞



災害対応

今年8月下旬の豪雨で松木内川が氾濫し、道路が崩壊。緊張感に満ちた復旧作業の様子(写真上)と、完成した迂回(うかい)路(写真下)



ダム建設

大仙市の「協和ダム」など、県内外の大型ダムの建設工事も手がける



ボランティア

地域のボランティア活動にも参加。角館の桜まつりでは交通誘導を担当

あきたを創り、あきたを守る

—— 最先端技術で変化する現場 ——

VOL.2

私たちの生活の基盤を支える建設業の魅力を3回にわたって紹介するシリーズ第2回目は、近年、建設業界で進む技術革新と働き方改革がテーマです。今回は、ICT(情報通信技術)導入と、それによってもたらされる現場の変化についてユナイテッド計画(秋田市)の代表取締役社長CEOで秋田中央建設業協会会長の平野久貴さんにお話を伺いました。

INTERVIEW

ユナイテッド計画(秋田市) 代表取締役社長CEO
秋田中央建設業協会 会長

平野久貴 さん

ICT導入による現場の変化



ICTの導入による現場の変化について語る平野会長

国土交通省の資料によると、2024年時点で建設業の就業者は約477万人。このうち55歳以上が36.7%となっており、今後は人手不足が大きく進むことが見込まれています。業界最大の課題ですが、実はこれこそが「働き方」を改革する大きなきっかけになって

いくと思います。国はいま人材不足に備え、労働者1人当たりの生産性を向上させようとICT(情報通信技術)の導入を推進しています。

建設現場にICTが導入されると、重機などの遠隔操作が可能となり、現場にいなくても工事を進められるケースが増えてきます。例えば先日、ICTを導入した北海道の建設会社を私が訪ねた際、ビルの一室で女性の作業員が、何十キロも離れた現場の重機を遠

隔操作しているのを目にしました。彼女は毎日同じ時間に同じオフィスに通勤し、屋外現場での工事を進めているのです。オフィスからの遠隔操作なので、服は汚れません。新たに遠くの現場を担当することになっても、家を出る時間はいつもと変わらないのです。

従来の感覚ではびっくりするような話かもしれませんが、こうした働き方が当たり前になる時代が、すぐそこまで来ています。今まで建設現場で働くことを考えられなかった人に

広がる働き方の可能性

とっても、活躍できる可能性が広がってきたということです。

ただICT導入にはコストがかかるため、県内での活用実績は大規模な工事を受注する会社に限られているのが現状です。秋田中央建設業協会の会員企業では、現在51社中約10社が導入済み。今後はこの流れが中小企業にも広がっていくでしょう。

当社でも実用化はこれからですが、ICTを使用する工事を受注するには、使いこなせる人材を育てなければなりません。協会では、実機を用いたデモンストレーションなどを通じ、会員企業の現場社員が最先端の技術に触れられるよう研修会を積極的に開催、知識・技術の浸透に取り組んでいます。

労働人口の減少と技術革新、働き方の変

革は密接なテーマです。こういう時代だからこそ業界はアップデートを続け、若い人たちから選んでもらえる産業になる必要があるでしょう。最近では世代交代が進み、県内でも40～50代の経営者が増えてきました。彼らは発想がスマート。若い世代ならではのアイデアが、これからの業界には求められています。



昨年12月に開催されたICT研修会。秋田中央建設業協会の青年協議会に属する若手社長や次期社長候補ら約20名が参加した

最新ICTを見る

県内の建設現場でのICTの活用事例を紹介します。

協力/コマツ秋田

ICT建機

ICTを搭載した建設機械は、衛星を利用して位置を把握し、3次元の図面と現場の状態を照らし合わせながら作業が可能。オペレーターの負担を減らしつつ精度の

高い施工が行える。また、現場に目印をつける「丁張(ちょうはり)」という作業が不要になるため、工数・工期が短縮されるほか、少ない人数で対応できる。

マシンガイダンス

操縦席のモニターに設計図や建機の位置などを表示し、オペレーターをガイドするシステム。



モニターにはバケット(作業機先端)の刃先の位置が表示される。これにより、目視できない水中の作業も可能。刃先の精度確認は毎日実施される。



今年行われた県内の河川の改修工事。マシンガイダンス搭載の、アームの長い油圧ショベルが使用された。

マシンコントロール

3次元設計データを機械が認識し、設計図面どおりに動きを制御するシステム。オペレーターは指定の位置にバケットを合わせて掘削するだけでよく、設計面に達すると自動で止まる。



昨年行われたコマツ秋田本社(秋田市川尻)新築工事では、マシンコントロールを搭載した油圧ショベルが使われた。



WEBアプリ

工事の進捗状況が3次元でリアルタイムに確認できる事業者用WEBアプリ。インターネットを介してさまざまな情報が共有されるため、離れた場所からでも現場の状況が正確に把握できる。

左はWEBアプリの画面。工事の途中の段階で、設計図どおりに作業が進んだエリアは青く、手付かずのエリアは赤く表示されている。



モニター上では設計図の上を建機が移動している。現実の工事現場に図面が引かれているような感覚で作業できる。



主に土木施工会社などを対象にコマツ秋田が解放している「デモトレセンタ由利」(由利本荘市)でのICT搭載建機の実演風景。

あきたを創り、あきたを守る

—— 女性・若手従業員のサポート体制 —— VOL.3

私たちの生活の基盤を支える「建設業」を紹介するシリーズ。最終回となる第3回目は、深刻な人材不足を解消するための取り組みがテーマ。女性従業員と若手従業員のサポート体制に注目し、県内の2社から現場の声を聞きました。



八重樫建設 工務部 課長補佐
あきた建設女性ネットワーク クローバー 共同代表

安保咲子 さん

楽しい職場環境アピール

— 建設業で働くきっかけは

水道屋だった父の影響で、工事現場は幼少期から身近な場所でした。大館工業高校の建築科で測量を学び、高卒で働き始めました。求人も少なく「女の子は少ない」と断られたこともありましたが、当時の八重樫学社長（現会長）に採用していただきました。

— 担当している業務内容は

土木工事の現場監督です。計画を立て、進行状況やコストなどを管理しています。現在は次の工期の準備を進めながら、若手のサポートをしています。

— 20年働いてきて、環境は変わった？

女性をもっと取り込もうという動きが広ま

り、働きやすくなってきています。具体的な例としては、工事現場のトイレが改善されました。クローバーに所属する女性たちが県に要望を出したことで「快適トイレ」が設置義務化され、清潔で丈夫な、男女別のトイレが実現しました。

— クローバーの活動を教えてください

県内の建設業で働く女性たちによる団体で、2018年に設立しました。男女共に働きやすい環境づくりや、人材確保のための広報活動をしています。

— クローバーの活動を通して変わったことは？

男性が多い環境で長年目立たないよう働いてきましたが、現場の担い手不足は深刻。私たちが楽しく働いていることをもっ

と周知しなければと思うようになりました。若い女性の入職者が増えてきていると県庁の担当者から聞いたので、もっと頑張りたいです。

— 女性にアピールしたいポイントは

この業界は服装や髪型、ネイルなどの自由度が高い会社が多く、おしゃれを楽しみながら働いている人がたくさんいます。また、基本的に工期に合わせて働くので、区切りのいいところで産休・育休を取りやすく、復帰もしやすいです。

あきた建設女性
ネットワーク クローバーの
Instagramはこちら



広がっていく女性活躍の場

八重樫建設(鹿角市) 佐藤隆志 代表取締役社長

サポート体制の充実図る

現場担当者の負担や時間外労働を減らすためのサポートを担っています。このような現場に出ない業務も、今後はもっと広がっていくでしょう。

— 資格取得のサポートもあるのですね

建設事務には、会社が費用を援助して民間資格「建設ディレクター」の取得を目指してしてもらっています。1名はすでに取得済みです。資格取得を通して建設業を身近に感じてもらえたらと思っています。興味を持ってもらえる入り口を用意して、その中から重機を

動かしたい人材も現れたらうれしいですね。

— 育児中の従業員の働き方についてどんな配慮をしていますか

今年10月、国の「育児・介護休業法」の改正により「育児期の柔軟な働き方を実現するための措置」が施行されました。わが社ではこの措置の一つとして、3歳以上の未就学児を育てている従業員に養育のための休暇を年に10日間付与。加えて、そのうちの5日間を有給休暇として利用できるよう独自に設定しました。早速利用している女性従業員もいますよ。



女性従業員の働きを語る佐藤社長

— 女性従業員はどんな現場で活躍していますか

現在従業員51名のうち7名の女性が在籍しており、現場監督や建設事務などとして活躍しています。建設事務2名の業務は、現場担当者の書類作成の代行です。多忙な

花岡土建(大館市)

鈴木一敬 代表取締役



風通しいい環境づくりを

— 若手人材定着のために取り入れていることは

建設業は昔の「昼も夜もなく、休日もない」頃のイメージがまだ根強いですが、業界全体で働き方改革が進んでいます。わが社では休日の確保や時間外手当の支給はもちろんのこと、入社1年目から有給休暇を年20日間付与するなど福利厚生の実施を図っています。会社も時代に合わせて都度アップデートしていかなければ、人材は定着しません。

— 今後の課題は

現在、10代から70代の61名が在籍しています。業界全体でその傾向が強いのですが、一時期公共工事が減少した影響で30～40代の

中間層が少ないため、風通しのいい環境づくりに苦心しています。われわれももっと若手の考えを聞きたい。引き続きコミュニケーションのしやすい体制を整えてまいります。



若手が働きやすい環境づくりを語る鈴木社長

若手社員の声

- 1 仕事内容とやりがい
- 2 今後の目標
- 3 若者をもっと取り込むにはどうすれば良いと思う？

◆ 建築技術者
菅原実夢さん(24)



- 1 現場監督として、先輩にアドバイスをもらいながら、見積もりや図面作成などの事務作業と、工事が計画・図面通りに進んでいるかといった現場全体の管理をしている。小さな建屋だが、今年は初めて一人で現場監督をやり遂げた。新しいことを任せられると、自分の成長を実感できる。お客さまから直接感謝の言葉を伝えてもらうこともあり、やりがいを感じる。
- 2 現場では、社内だけでなく下請けや職人の皆さん、お客さまともやりとりがある。頼りないと思われたいよう、もっと自信をつけて、堂々と現場に立てるようになりたい。
- 3 DX(デジタルトランスフォーメーション)の活用が若手一人一人の育成にもつながるのではないかなと思う。

◆ 土木技能者
木村冬月さん(23)



- 1 主に道路や駐車場などの舗装工事を担当。約10人の体勢で動いており、現場はその都度変わる。最近作業をした大館市泉町の現場は交通量が多く苦労したが、自分もよく通る道。自分たちが造った道路を見ると誇らしい気持ちになる。積雪のある期間は除雪作業をしている。人通りが増える前に終わられるよう、夜間に作業をしている。
- 2 どの機械に乗ってもうまく扱えるように、操作の腕を上げたい。
- 3 私たちが手がけた現場を見て「道路が綺麗になったな」と思ってもらえることができれば、興味を持ってもらうきっかけになるのでは。また、企業説明会のような場にもっと自分のような現場作業員が参加して、生の声を届けられたら良いと思う。

◆ 土木技術者
高橋和希さん(19)



- 1 現場監督の見習いとして、現在は二ツ井～今泉区間の高速道路工事の現場スタッフに入っている。現場作業は想像以上に過酷だが、それでも頑張ってみたら、先輩方や作業員の方たちが声をかけてくれるようになったり、楽しみを見つける余裕が出てきた。
- 2 少しずつできることは増えてきたものの、まだわからないことが多いので、もっと知識をつけたい。高校時代に2級土木施工管理技士の第一次検定に合格しており、実務経験の要件を満たしたら、第二次検定に挑みたい。
- 3 建設業の仕事は現場作業ばかりが目につきやすいが、他の業務もいろいろある。具体的な業務の流れを事前に提示できれば、もっと興味を持ってもらえたり、離職者も減るのではないかな。